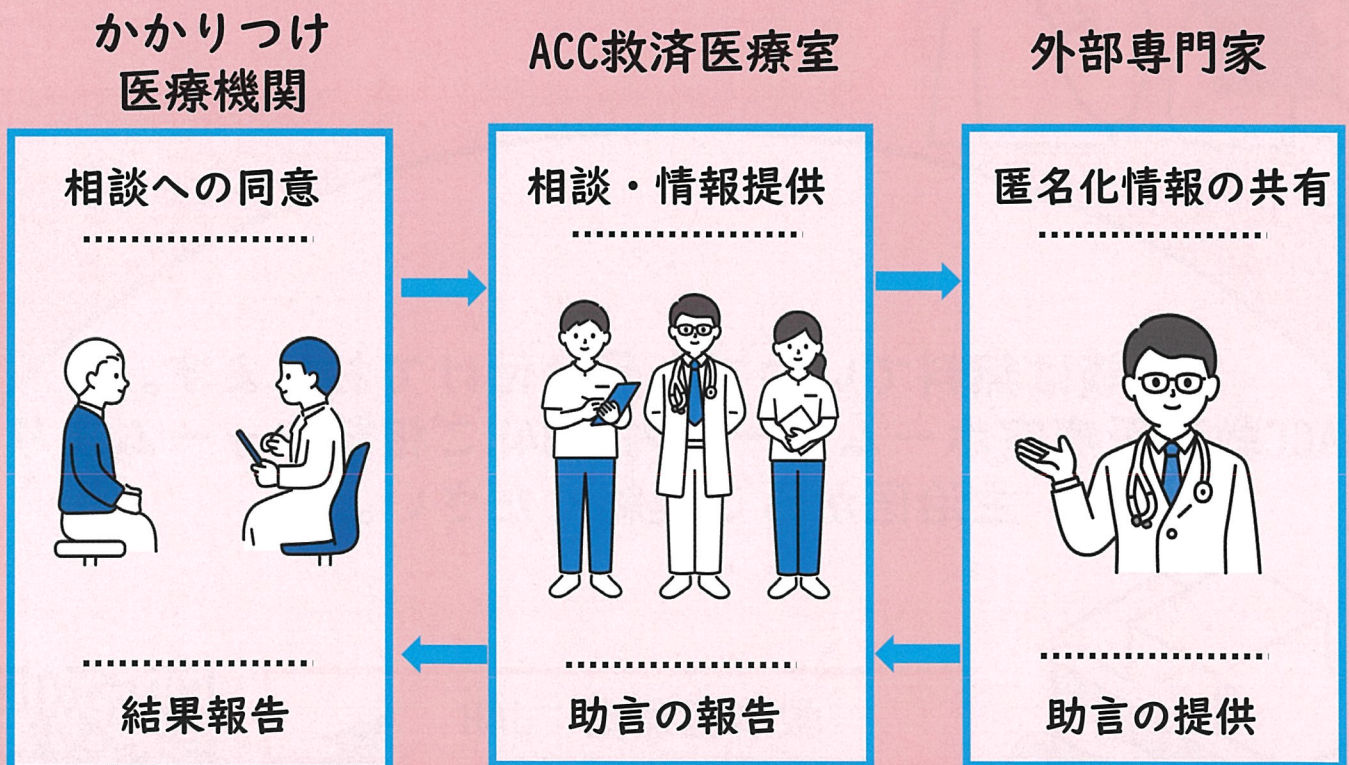


J4H

肝疾患相談窓口

Japan Consultation Network
for HIV, Hepatitis, and Hemophilia

ACC救済医療室に薬害HIV感染者の方の肝疾患診療に関するご相談窓口を開設しました。



患者さんの同意を得たうえで主治医から
ACC救済医療室にご相談ください。
外部専門家の意見をふまえご回答いたします。

患者さんに適した
肝疾患治療があるのか

門脈血栓症を
どう診療するべきか

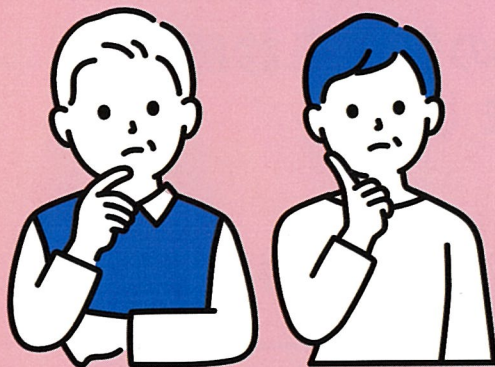
重粒子線治療が
患者さんに行えるか

薬害HIV感染者の
肝移植について
専門家に相談したい

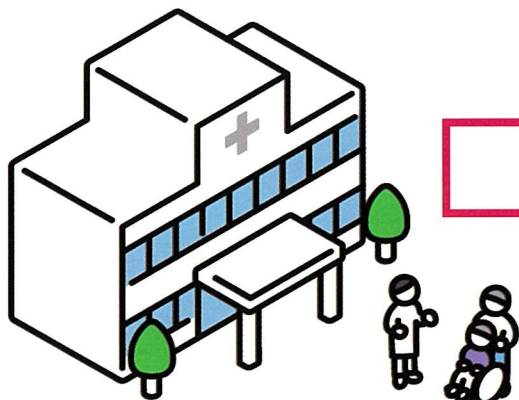
ご紹介できる治療

- ・重粒子線治療（保険適応外を含む）
- ・肝移植

その他にも、肝疾患に関連して悩まれる
ことがあれば、お気軽にご相談ください。



ご相談は無料でいつでも受け付けております。
ACC救済医療室ホームページ内のJ4Hご相談フォームより
主治医からご連絡ください。



救済医療室 J4H



国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター
エイズ治療・研究開発センター(ACC) 救済医療室



安心して療養生活を送ることが できる体制に向けて

平成8年の薬害 HIV 訴訟の和解からおよそ 30 年が経ちました。これまでに亡くなくなった多くの被害者の方々の御冥福を心よりお祈りするとともに、御遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、今もお療養をされている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

抗 HIV 療法など医学は進歩しているものの、現在、感染被害者の方々は、血友病、重複感染した C 型肝炎や様々な合併症に加えて、高齢化のため、医療のみならず、福祉、生活面で様々な困難に直面し、支援を必要とされており。

厚生労働省としては、「誓いの碑」に刻まれているとおり、悲惨な被害を再び発生させることのないよう、薬害の再発防止に向けた取り組みを推進するとともに、被害救済のため、皆様の御意見を聞きながら、適切な療養環境の確保に努めてまいります。

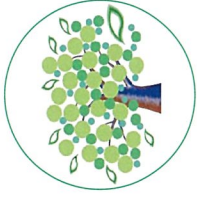
救済医療室では、治療と生活の両立を目的に、多職種によるチーム医療により包括的な診療・ケアを提供するとともに、患者さん一人ひとりに寄り添い、適切な医療ケアを提供するため、「個別支援」などに取り組んでいただいています。厚生労働省は、皆様が少しでも安心して療養生活を過ごすことができますよう、救済医療室とともに取り組んでまいります。



厚生労働省
医薬局 総務課
医薬品副作用被害対策室長
上村 浩代

つながろう ひろげよう

「命の樹」



血友病包括外来の前には、薬害 HIV の教訓を伝える「命の樹」のモニメントがあります。東京 HIV 訴訟被害者 837 名の原告番号を葉に記し、「命の尊さ、それを守る医療」の願いを託した象徴となっています。



救済医療室



国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター
エイズ治療・研究開発センター (ACC) 救済医療室

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-21-1

TEL : 03-3202-7181 [代表]
03-6228-0529 [直通]

<https://kyusai.acc.jihs.go.jp/>



AIDS Clinical Center

国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター
エイズ治療・研究開発センター (ACC)

ご挨拶

令和6年4月1日より救済医療室長を拝命しました上村悠です。全ての被害者とご家族、ご遺族に心より敬意を表します。また、私たちの薬害エイズ被害者救済医療の活動にご支援を頂いております皆様へ深く感謝を申し上げます。

1996年の薬害エイズ訴訟の和解、そして1997年のエイズ治療・研究開発センター設立から四半世紀が経過しました。この間、医学上の進歩は目覚ましいものがあります。抗HIV療法はより高いウイルス抑制効果を得られるようになりました。血友病の治療については、長期作用型の薬の登場により定期補充療法の普及が加速し、近年では皮下注射による治療も開発され、治療の選択肢が広がっています。C型肝炎は、新たに開発された直接作用型抗ウイルス薬により、高い確率で治療することが可能となりました。

医学は進歩をしている一方で、新たな課題もでてきました。高齢化に伴い生活習慣病や悪性疾患のリスクが増えています。肝硬変の方などでは、C型肝炎ウイルスの排除後であっても、肝臓を発症するリスクは残り、注意が必要です。血友病については、関節症の進行、そして療養環境の確保など、懸念すべき課題が多数残されています。薬害被害者が直面している課題は、同時に日本の医療にとっても重要な課題となります。私たちは、今の時代に直面する課題について、正しい情報を収集し、どのように対処するべきかを検討し、発信をします。

全ての皆様が最高の医療を受け、安心安全な生活を送るために、当事者である皆様の声を大切に、全国の医療者・関係者と共に患者参加型医療、薬害エイズ被害者救済に取り組んでまいります。お力添え頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

救済医療室長

上村 悠

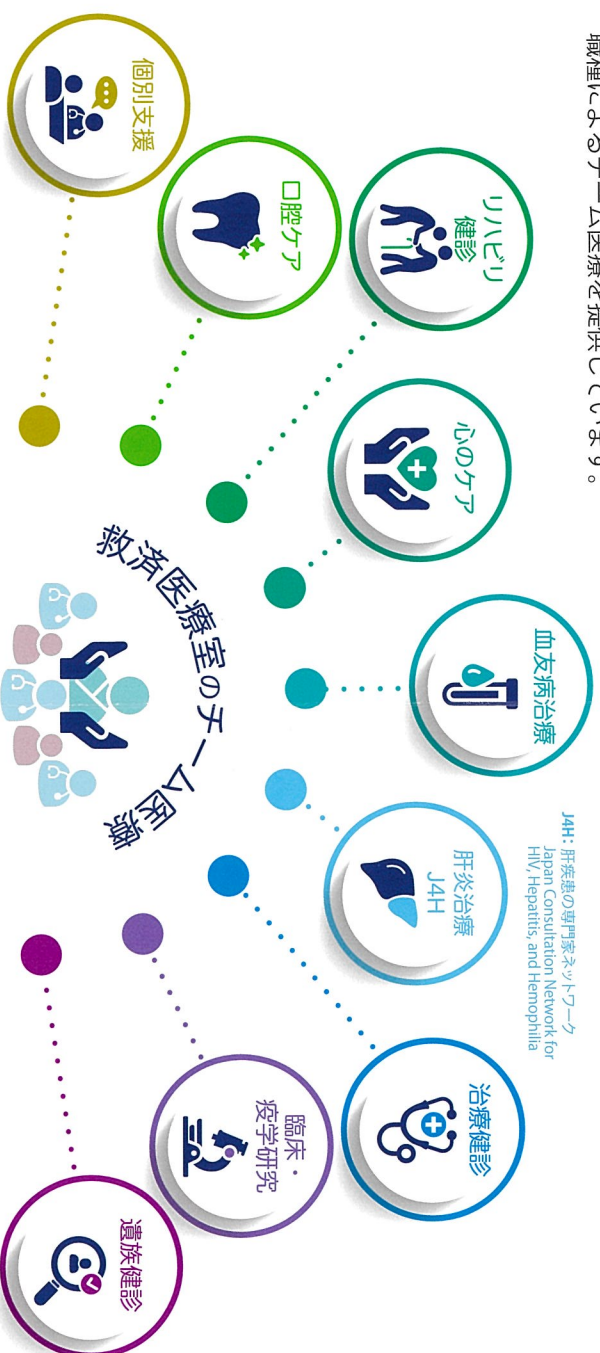


血友病・HIV感染症・C型肝炎・その他合併症の治療・療養・心のケア

『救済医療室』にご相談ください



1997年4月、薬害HIV裁判の和解による恒久対策として国立国際医療研究センターにエイズ治療・研究開発センター（ACC）が設置されました。その後、2011年7月にはACC内に「救済医療室」が発足、同年9月に薬害HIV感染被害者を対象とする「血友病包括外来」を開設しました。患者さんが充実かつ安定した日常生活を過ごせるよう、院内外の多職種によるチーム医療を提供しています。



院内外の多職種医療スタッフが連携して患者さん一人ひとりをサポートします



ACC
救済医療室長
上村 悠先生



ACC
専門外来医長
中本 先生



ACC
患者支援調整職
大金 先生



ACC
薬害専従コーディネーター
大杉 先生



ACC
コーディネーター
鈴木 先生



ACC
心理療法士
木村 先生



ACC
医療社会事業専門員
高橋 先生



ACC
歯科衛生士
宮本 先生



NCGM
消化器内科診療科長
柳瀬 先生



NCGM
精神科診療科長
加藤 先生



NCGM
リハビリテーション科診療科長
藤谷 先生



長崎大学大学院
移植消化器外科
長崎大学病院第二外科 教授
江口 先生

ACC 研修

ACC@e-Learning オンライン講座



HIV 感染者の診療・看護など実務を担う医療従事者の育成と全国的ネットワークの構築を目的に、ACC 研修 (e-learning・実地研修) を実施しています。

ACC e-learning

一般視聴 修了認定コース内のオンデマンド動画 (基礎および他コースの一部) が視聴可能

認定コース

1. 基礎コース HIV 感染症診療の基礎を学ぶ
2. 基礎コース Plus HIV 看護に活かせるステップアップコース
3. 応用コース (職種別) 職種ごとの専門的な知識により理解を深め、技術を高める
4. 心理職 (カウンセラー) コース HIV 陽性者の心理とメンタルヘルスを学ぶ
5. 地域支援者コース 長期療養時代の療養支援、医療機関連携を学ぶ
6. 歯科医療従事者コース 歯科診療時に必要な知識を学ぶ
7. 周産期小児コース HIV 感染症の産科、小児科領域の知識を学ぶ

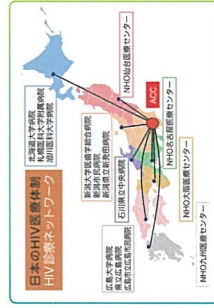
実地研修

HIV 看護専門コース 包括的な患者支援の実践に必要なスキルの習得、HIV コーディネーターとしての役割・活動を学ぶ

* 研修コース・内容は年度によって異なる可能性があります。

全国ブロック拠点病院等との連携

1997 年、全国を 8 つのブロックに分け、各ブロックに核となるブロック拠点病院が設置され、その後ブロック内各地域に拠点病院が設置されました。2006 年には各都道府県においてエイズ診療の中心となる中核拠点病院が整備され、全国どの地域でも適切な HIV・エイズの診療が受けられるよう医療体制が整えられています。ACC は全国のエイズ治療拠点病院等と連携し、医療の均てん化や医療水準の向上などに取り組んでいます。



Sexual Health 外来

次世代に HIV を残さないための取り組みとして、新規感染者ゼロを目指した予防活動を行っています。HIV に感染していない男性同性間性交渉者を対象に Sexual Health 外来を開設し、HIV 感染症だけでなく他の性感染症も含めた予防活動に力を投入しています。自ら主体的に性の健康を守ることを応援する外来です。

SH 外来
Sexual Health 外来
エスエイチ外来

HIV 治療とその合併症 診断と治療のハンドブック

医療従事者向け「診断と治療ハンドブック」の初版は、2005 年。改訂を重ね、最新版をウェブサイトで公開しています。



▲ デジタルブック
公開中

ACC 患者ノート からだ・こころくらし・くすりノート

ACC は 1997 年の設立当初から、患者さん向けに「からだ・こころくらしノート」を発行しています。最新版をウェブサイトにて公開しています。



【電車をご利用の方】

- ・都営大江戸線「若松河田駅」下車 徒歩 5 分
- ・東西線「早稲田駅」下車 徒歩 15 分

【都営バスをご利用の方】

- 「国立国際医療センター前」下車 徒歩 0 分
- ・新宿駅から医療センター経由女子医大行き
- ・大久保・新大久保から新橋行き
- ・市ヶ谷・新橋から小滝橋車庫行き
- ・都営飯田橋駅前から牛込柳町駅経由小滝橋車庫行き



国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター

エイズ治療・研究開発センター



AIDS CLINICAL CENTER



国立健康危機管理研究機構

国立国際医療センター

エイズ治療・研究開発センター (ACC)

〒162-8655 東京都新宿区戸山 1-2-1

TEL : 03-3202-7181 [代表]

FAX : 03-3208-4244

HIV 感染症の最先端医療・研究の拠点 エイズ治療・研究開発センター

エイズ治療・研究開発センター (AIDS Clinical Center, ACC) は、1996年3月の薬害エイズ訴訟の和解を踏まえ、HIV 診療の恒久対策として1997年4月1日に国立国際医療センター病院 (当時) に設置されました。2011年にはACC内に「救済医療室」が発足。院内外の診療科だけではなく、行政や支援団体と連携しながら多職種によるチーム医療で包括的な診療・ケアの提供を進めています。

ACCは外来・病棟・治療開発室・医療情報室の4部門からなり、国内外のHIV感染症の治療・研究機関との連携のもと、新しい治療法開発のための臨床研究や、HIV感染症の医療水準の向上を目的とした最先端の医療情報の提供、医療従事者・地域支援者に対する研修の開催など、役割は多岐にわたります。特に国際臨床試験やアジア諸国との国際共同研究に加え、近年はHIV感染者の治療のみならず予防医療にも力を入れ、新規感染者ゼロを目指した活動も行っています。

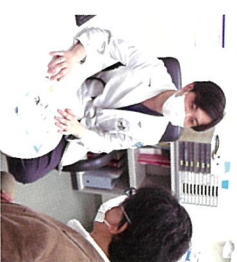
今後もHIV感染者すべての方々の生活の質の向上を目指し、日本のみならず世界のHIV感染症に対する医療水準の更なる発展のために取り組んでまいります。

ACCの理念

1. 患者の権利と尊厳を重視した「患者中心」の医療を心がけ、高度かつ最先端の医療を実践します。
2. 多職種からなる医療チームで情報を共有し、安全かつきめ細やかな医療を目指します。
3. 安心・納得して医療を受けられるよう、病状や治療内容についての分かりやすい説明を心がけます。
4. 国内外の最先端医療を積極的に取り入れ、最高レベルの医療の提供を目指します。

チーム医療による包括的なHIV診療の提供と HIV感染症の医療水準の向上をめざして

ACCの診療



ACCには首都圏を中心に全国から受診者が訪れています。外来は月曜日から金曜日までの平日、毎日複数名の専門医が診療を行い、病棟は患者さんが快適かつ安心して治療に専念できるようゆったりとした設計になっています。最新の治療法などの情報収集や医療レベルの維持・向上のために各種カンファレンスなどを定期的にを行い、HIV・エイズの治療だけでなくさまざまな合併症に対し院内外の専門機関と連携して、最適な医療の提供に努めています。

臨床研究・基礎研究



国内外のHIV感染症治療・研究機関との連携のもと数多くの臨床研究・基礎研究を行い、HIV感染症に対する新たな診断・治療法の開発に取り組んでいます。研究の範囲はHIVや抗HIV薬をはじめ、合併する日和見感染症や肝炎など幅広く、感染症全般に及びます。研究成果は、学術雑誌への論文発表や学会報告を通じて国内外に広く発信しています。

救済医療室



1997年4月、薬害HIV裁判の和解による恒久対策として国立国際医療研究センターにエイズ治療・研究開発センター (ACC) が設置されました。その後、2011年7月にはACC内に「救済医療室」が発足、同年9月に薬害・HIV感染被害者を対象とする「血友病包括外来」を開設しました。患者さんが充実かつ安定した日常生活を過ごせるよう、院内外が多職種によるチーム医療を提供しています。

1980

81 82 83 87 88 89 91 95 96 97 98 99 01 11 12 14 16 17 20 21 25 26 27

日本で初めての抗HIV薬AZTが承認される
同シーズンの三上三三氏と米国のギョロロ氏が
同時に原因ウイルスを分離し
後にHIVと命名される
日本初の薬害エイズ被害者の報告
C/Cが11例の血友病患者のHIV感染は
血液製剤が原因とみられると報告
C/Cが輸血・血液製剤によるエイズ症例を報告
5名のかりこ肺炎を報告

1990

「エイズ医療情報センター」設置
国立病院医療センター(当時)に
第1回世界エイズデー(12月1日)
東京・大阪HIV訴訟
「後天性免疫不全症候群」の予防に関する
法律(エイズ予防法)施行
世界的シンボルになる
「エイズ」の名称がAIDSに改称
厚生省(当時)を「エイズ」に改称
東京・大阪HIV訴訟の和解成立
可能となり、事後が大きく改善
日本ではこの頃に多剤併用療法(HAART)が
全国87箇所に14のフロンティア拠点病院が整備
A/C設立・専門病棟開設

2000 2010

申請対象疾患に
免疫機能障害を身体障害者手帳の
厚生労働省の正面玄関前に「薬害根絶の碑」建立
「後天性免疫不全症候群」に関する
特定感染症予防指針(エイズ予防指針)制定
エイズ予防法廃止
東京大学後援科と協力し、世界初三三C
重症感染血友病患者の生体部分肝移植が実現
日本エイズ学会認定制度発足(医師・看護師)
UNAIDSが2003年エイズ流行
終結に向けた目標を発表(09-90-95/2020)

2020

A/C設立30周年
世界で初めての新規作用機序の
抗HIV薬「S」が承認される
「国立健康危機管理研究機構」設立
「命の樹」をテーマに
エイズ医療体制構築20周年記念式典開催
血友病薬害被害者手帳が発行される
UNAIDSが2020年エイズ流行
終結に向けた目標を発表(09-90-95/2020)